

2014年11月6日 公益信託ENEOS水素基金 第9回助成金贈呈式を開催

JX日鉱日石エネルギーは、「公益信託 ENEOS 水素基金」を通じて水素エネルギー供給に関する基礎研究への助成を 2006 年より行っている。年間総額 5,000 万円（1 件あたりの上限は 1,000 万円）を約 30 年にわたり安定的、継続的に助成することで、水素エネルギーによるサステナブルな社会の早期実現を目指している。第 9 回目となる今年度は、50 件の応募の中から厳正な審査により 6 件のテーマが決定された。

贈呈式では杉森社長より、「ENEOS 水素基金は過去 45 件の有望な研究テーマに助成し、多くの成果を生んできました。今回、助成対象となられた研究テーマも、技術革新の起爆剤となる可能性を秘めたものばかりと聞いています。本基金の助成を最大限に活用し、独創性・新規性に溢れる研究成果を生み出すことによって、水素エネルギー社会の早期実現に貢献していただきたいと思います。」との挨拶の後、堂免一成運営委員長（東京大学工学系研究科教授）より、助成対象者への目録が贈呈された。

また、贈呈式に先立ち開催された 2012・2013 年度助成対象者 7 名による成果報告会では、活発な質疑応答が行われた。

（中央技術研究所 技術戦略室 エネルギー技術プロジェクトグループ 玉川 晶子）

2014年度 研究テーマおよび助成対象者

研究部門	研究テーマおよび助成対象者
水素製造技術	可視光応答型非酸化物系半導体を用いる二段階励起型水分解系の構築 阿部 竜（京都大学大学院工学研究科物質エネルギー化学専攻 教授）
	太陽光を利用した水素製造を指向したナノ同軸ワイヤー構造を持つ光触媒の開発 高口 豊（岡山大学大学院環境生命科学研究科 准教授）
水素貯蔵・輸送媒体に関する技術	高い水素貯蔵・生成レート特性を有する新しい水素キャリア分子の創出 小柳津 研一（早稲田大学 理工学術院（先進理工学研究科 応用化学専攻） 教授）
CO ₂ 固定化技術	非アミン系二酸化炭素吸収液を用いた新規二酸化炭素回収プロセスの開発 八坂 能郎（同志社大学理工学部 助教）
	二酸化炭素とジオールからポリカーボネート直接合成のための固体触媒反応システムの開発 富重 圭一（東北大学大学院工学研究科応用化学専攻 教授）
	多孔性高分子と金属・有機物構造体を用いたハイブリッド分離膜の創成 シバニア イーサン（京都大学物質・細胞統合システム拠点（iCeMS） 主任研究者・准教授）



助成対象者および ENEOS 水素基金関係者